特別展　福武コレクション

# 国吉康雄

Kuniyoshi

制作中
（1943年・油彩）

**会期　昭和62年5月26日（火）―7月19日（日）**

**渋谷区立松濤美術館**

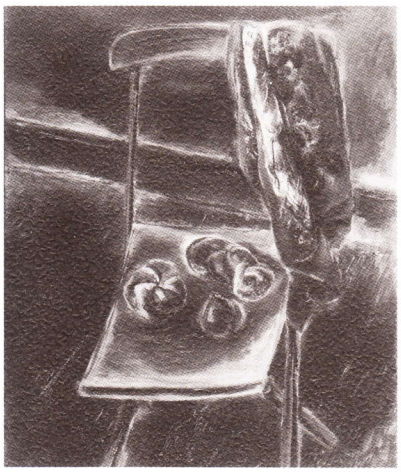
# 解　説

二人の赤ん坊（1923年）

近代日本の美術は、ヨーロッパ、とくにフランスの圧倒的影響のもとに展開してきました。黒田清輝、岡田三郎助をはじめとする多くの画家がパリに学んだことは周知の如くです。それに比して、美術における日本とアメリカとの関係は極めて稀薄でした。アメリカの美術自体が、今世紀初頭から、ヨーロッパの影響を脱しつつ、独自の展開を始めるに至ったのであり、その展開も世界的には辺境の出来事というべきもので、日本の美術界も無視したに等しいといえます。

しかし、日本とアメリカとの美術における関係が皆無であったわけではなく、アメリカ美術が独自の展開を始めたこの時期に、アメリカで学び、アメリカ美術界で活躍した日本人たちがいます。国吉康雄、石垣栄太郎、清水登之、野田英夫などです。彼らは、黒田や岡田らのヨーロッパに学んだ画家の多くが留学生として恵まれた条件のもとで学んだのに対して、もともと画家になることなど考えず、移民として若くして渡米し（日系二世の野田を除く）、働きながら学ぶなかで美術に対する眼を開いていったのです。なかでも、アメリカ美術の改革者、アメリカ近代絵画を代表する画家として、アメリカ絵画史に大きな足跡を残した日本人、それが国吉康雄でした。

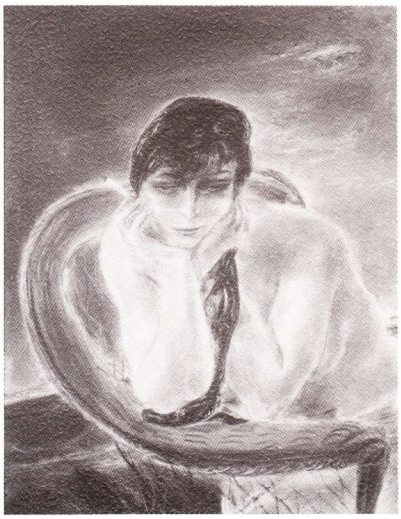
国吉康雄は、1889年（明治22）に岡山市の商人の子として生まれ、活発で、多少冒険好きな、そして、外国への憧れを抱くロマンチックな少年として成長しました。1906年（明治39）、国吉は県立工業学校を中退し、英語の習得という漠然たる志を抱いて単身渡米しました。初めにスポーケンの汽関車庫、ついで、シアトルでビルのポーターなどをしながらミッション・スクールに通い、翌年、ロスアンジェルスに移り、ホテルや果樹園で働きながら公立学校に通いました。ここで不自由な言葉を補うために描いていた絵が一教師の眼にとまり、美術学校への入学を勧められました。国吉は、その勧めにしたがいロスアンジェルス美術学校に転じ、3年後、ニューヨークに出て、ナショナル・アカデミーなどに学びましたが、この間、生活に追われ、ヨーロッパ絵画の動向をアメリカに伝えたアーモリー・ショー（1913年）を見逃すことになりました。1916年、アート・ステューデンツ・リーグに入学した国吉は、4年間、ケネス・ヘイズ・ミラーという優れた師の指導をうけました。



椅子の上のロールパン（1930年）

1917年、独立美術家協会展に出品した国吉は、近代絵画の良き理解者ハミルトン・イースター・フィールドの知遇を得、その死（1922年）まで援助を受けました。そして、1922年に、初の個展をダニエル画廊で開き、好評を得て、この後、同画廊でほぼ毎年の様に個展を開き、メンバー展に出品しました。

1925年と1928年の2回、国吉はパリを中心にヨーロッパを訪れ、ピカソやスーティンらと交わりました。とくに、ニューヨークで旧交のあったパスキンに、モデルを使っての制作を勧められたことは、大きな転機となりました。それまでの国吉の画風は、牛や鳥・花や子供などの牧歌的モチーフを簡明なフォルムで描いたプリミティブな画風で、色彩も黒や褐色を基調とした単調なものでした。この時以後、モチーフは女性と静物が多くなり、色調も中間色を加えて幅を広げました。とくに、女性像は、官能的な中に、当時のアメリカ社会が抱える不安を浮き彫りにするかのような退廃と憂愁の情感あふれるものがあります。



バンダナをつけた女（1936年）

二匹の犬のいる風景（1945年）

ヨーロッパから戻った翌1929年、国吉はニューヨーク近代美術館での「19人の現存アメリカ作家展」に最年少で選ばれ、「アメリカの画家」としての地位が確立されました。その一方で、1931年に父の病気見舞いと個展開催の為に、唯一の帰国をしましたが、日本の美術界、高まる軍国主義の風潮に失望し、「日本に属していない」と感じつつ、翌年アメリカへ戻ったのでした。

アメリカに戻ってから、妻との離婚、ダニエル画廊の閉店、アメリカン・グループの結成など身辺は慌ただしいものがありましたが、制作活動は盛んであり、1934年にはペンシルヴァニア・アカデミー・オブ・ザ・ファイン・アーツの年次展でテンプル・ゴールド・メダル（特賞）に、1939年にはカーネギー・インスティテュートの国際絵画展で二等賞などの受賞を重ねました。この間、日米関係は悪化の一途をたどり、ついに、1941年には日本が真珠湾攻撃を行ない、国吉は敵性国民となりましたが、アメリカン・グループをはじめ画家たちは国吉を支持し、国吉自身も日本向け短波放送で自由主義・民主主義の擁護を訴えました。この戦時下の1944年、国吉は、カーネギー・インスティテュートのアメリカ合衆国絵画展で一等賞を獲得しました。この頃の作品には、戦争の影響をうけ、彼の内なる不安・苦悩を象徴するものが感じられます。

戦後は、1947年にアメリカ美術家組合の初代会長に就任1948年にはホイットニー美術館で大回顧展が開かれ、名実ともにアメリカを代表する画家となりましたが、同時に、画風も大きく変化し、色彩は鮮明となり、モチーフとして、実在的なものではなく仮面の道化師が盛んに登場するなど一層の象徴性を増していきました。

しかし、この試みを追求する暇もなく、1953年5月14日、二度目の妻サラに見とられ、ガンのためニューヨークに没しました。

国吉は、「私の美術修業と教育はアメリカの学校と精神とに負うている。私の制作方法や思想は、他のアメリカ人と少しも違わない」と述べる如く、アメリカの画家として63年の生涯を終えたのです。

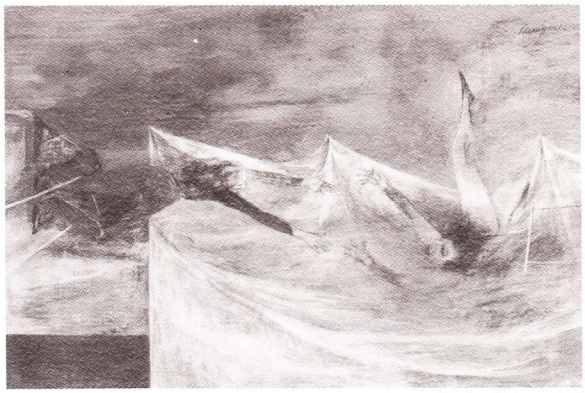
本展は、国吉康雄の生地岡山市に本社を置く福武書店のコレクションの中から、国吉康雄の油彩、素描、版画、写真を選び陳列いたします。

本展を通して国吉康雄の優れた画業をうかがえるものと思います。

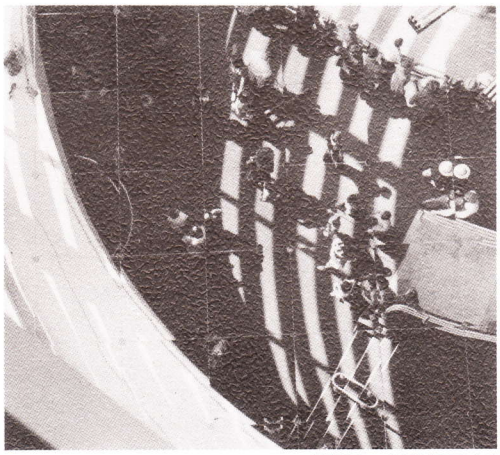
プラ…カフェ（1941年）

乳しぼり（1922年）

女、リンゴ、そして男（1916～1917年）



安眠を妨げる夢（1948年）



博覧会の天井（1939年）

## 国吉康雄略年譜

| | |
|---|---|
| 1889<br>明治22 | 9月1日、岡山市に生まれる。 |
| 1906<br>明治39 | 県立工業学校を中退して渡米。働きながら公立学校で学び、翌年、ロスアンジェルス美術学校の夜間部に入学。 |
| 1910<br>明治43 | ニューヨークへ移り、以後の数年をナショナル・アカデミーなどで働きながら学ぶ。 |
| 1916<br>大正5 | アート・ステューデンツ・リーグに入学、ケネス・ヘイズ・ミラーの指導をうける。 |
| 1917<br>大正6 | 独立美術家協会展に出品、ハミルトン・イースター・フィールドの知遇をえる。また、パスキンと知りあう。 |
| 1922<br>大正11 | ダニエル画廊で初の個展。以後、1931年まで同画廊で断続的に開く。 |
| 1925<br>大正14 | 最初のヨーロッパ旅行。パスキンの助言によりモデルを使っての制作を始める。 |
| 1928<br>昭和3 | 2度目のヨーロッパ旅行。リトグラフを盛んに制作する。 |
| 1929<br>昭和4 | 19人の現存アメリカ作家展に最年少で選ばれて出品。 |
| 1931<br>昭和6 | 日本に帰り、東京、大阪で個展開催。翌年、アメリカに戻る。 |
| 1933<br>昭和8 | アート・ステューデンツ・リーグの教師に迎えられる。 |
| 1934<br>昭和9 | ペンシルバニア・アカデミー・オブ・ザ・ファイン・アーツの年次展で特賞、ロスアンジェルス・カウンティ美術館の年次展で二等賞を受賞。 |
| 1939<br>昭和14 | カーネギー・インスティテュートの国際絵画展で二等賞、ゴールデン・ゲート国際展のアメリカ部門で一等賞を受賞。進歩的美術家団体アメリカン・グループの会長に就任。 |
| 1944<br>昭和19 | カーネギー・インスティテュートのアメリカ合衆国絵画展で「110号室」により一等賞受賞。敵国民の受賞として論議がおきる。 |
| 1947<br>昭和22 | アメリカ美術家組合の初代会長に就任。第二回ラ・トースカ美術競技会で五等賞受賞。 |
| 1948<br>昭和23 | ホイットニー美術館で、現存作家として初の回顧展開催。 |
| 1949<br>昭和24 | 第三回ラ・トースカ美術競技会で五等賞受賞。 |
| 1950<br>昭和25 | 今日のアメリカ絵画1950年展で「鯉のぼり」が三等賞受賞。 |
| 1953<br>昭和28 | 5月14日、胃ガンのためニューヨークで死去。享年63才。 |

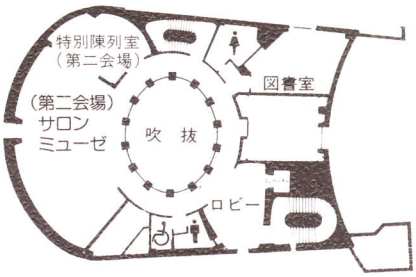
**講演会**

●6月6日(土)　午後2時～
「国吉康雄の人と芸術」
武蔵野美術大学教授　桑原　住雄氏

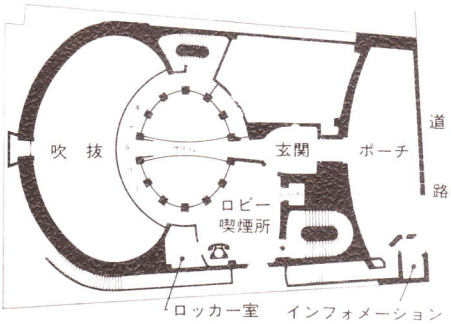
●7月4日(土)　午後2時～
「アメリカに学んだ画家たち」
評論家　石垣　綾子氏

## 松濤美術館・平面図

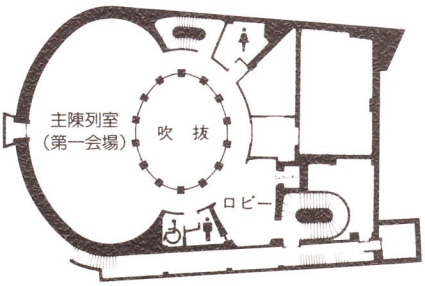
2階



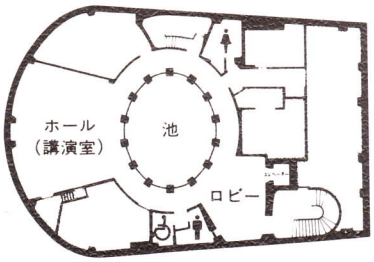

1階




地下1階




地下2階



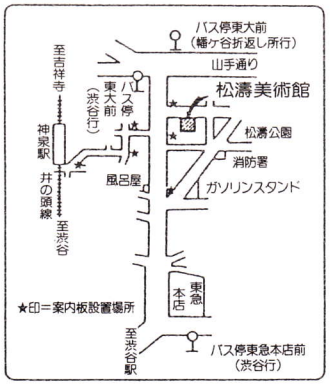

---

◎会　　期　昭和62年5月26日(火)～昭和62年7月19日(日)
※会期中陳列替をいたします。

◎休 館 日　第2日曜日及び他の週の月曜日
6月／1日(月)・8日(月)・14(日)・22日(月)・29日(月)
7月／6日(月)・12日(日)

◎開館時間　午前9時～午後5時（ただし、入館は4時30分）

◎入 館 料

| | 個　人 | 団体(20人以上) |
|---|---|---|
| 一　般 | 200円 | 160円 |
| 小中学生 | 100円 | 80円 |

### 案内図